禁無断転載

１８７．凍　結

福島再生プロジェクト推進室長　高村　和典

何年か前の２月、関東地方に厳しい寒波が押し寄せ冷え込んだ朝、寝ぼけた目で蛇口を開けたらお湯が出ない。

水道が凍った？

水道の配管は室内ばかりだし、この程度の冷え込みで凍るわけはない。何気なく、水のほうの蛇口をひねったらいつも通り水が出る・・・・・・

しばし考えて思い当たったのは、ベランダにあるガスの給湯器でした。就職する前、北海道の実家で、屋内にあったガスの給湯器が凍結して壊れたことを思い出しました。内部の熱交換器の配管が壊れていて、給湯器を新しいものに交換せざるを得なかったことを記憶しています。

管理会社に電話しましたが、凍結が多く発生したのか？なかなかつながりませんでした。給湯器や周りを見回しても水が漏れている様子もなく、ガスのにおいも特にしないので、とりあえず、解けるまで待つことにし、万が一を考えてガスの元栓を閉めて、そのまま出勤しました。帰宅すると、昼間のうちに解けたのか自然と復旧しており、大ごとにならずに済みました。

寒冷地で育ったせいで、冬季の水道の凍結対策には慣れているはずでした。

子供の頃、水道が凍結することを防ぐために、冬季に夜間や家を留守にするときに「水抜き」を行うことは常識的なことでした。

寒冷地の給水設備には、通常給水管が建物に入る前に、配管内の水を地中へ排出するための水抜き栓が取り付けられていました。水道管の凍結を防ぐために、水を流しっぱなしにしたり、水道管を保温したりすることがありますが、管の中から水をなくしておくことが一番確実な凍結を防止する方法です。屋内の配管が複雑であったり、給湯器等があると水の抜き方も複雑になります。手順にしたがって、水抜き栓や空気抜き用の蛇口、バルブ等や給湯器等の栓を操作して水を抜いていきます。操作の順番が意外と複雑で往生した記憶が残っています。

水洗トイレも例外ではなく、配管の水を抜いたり、タンクの水をからにしておいたりしました。

ＪＳの業務の関係で各地に住んでいましたが、「水抜き」そのものを知らない人が多いようです。積雪が多いところやかなり寒いところでも、水抜きの設備がないところがほとんどでした。山間部を除くと概ね東北地方までが「水抜き」の普及地域のようです。

何事も油断は大敵です。今年の冬もかなり冷え込むようです。今の家には「水抜き」の設備はありませんが、最低限の対策は考えておこうと思います。

Copyright©2019 日本下水道事業団技術戦略部